

顔料について(2)

粒子径が違う 無機顔料と有機顔料

一般的に無機顔料は粒子径が大きく、有機顔料は小さくなっています。粒子径が大きいと、それを包むために展色材の量が少なくてすみます。顔料分をまとめて同じ体積なら、ひとつひとつの粒子の小さいものほど表面積が大きくなるからです。油絵具は糊に乾性油を使います。油が多くなると艶が出やすくなります。油は作品の保管場所によって黄色味を帯びます。前回、無機色と有機色とで差異があること述べたのは、このことです。

体質顔料と有色顔料

絵具のパンフレットや解説書を読んでいると、「体質顔料」「有色顔料」という言葉がでてきます。前回の顔料の分類で、顔料には天然顔料と合成顔料があり、それぞれに有機顔料、無機顔料があることを説明しました。これは顔料に用いられる材料による分類ですが、絵具にはもうひとつ機能性という観点から分けたものがあります。それが体質顔料と有色顔料という分類です。有色顔料は文字通り色をもつ顔料のことです。体質顔料はそれ自体白色でありながら、油で練るとほとんど透明になる性質を持つもののことをいいます。炭酸カルシウムやアルミナホ

■無機顔料と有機顔料の比較

	光沢	黄変性	油分	隠ぺい力	着色力	耐光性	彩度
無機色	小	小	少	大	小	大	低
有機色	大	大	多	小	大	小	高

イトなどがそれにあたります。なぜ半透明〜透明になるのかというと、炭酸カルシウムやアルミナホワイトの屈折率が油と近いからです。

体質顔料を単なる絵具の増量剤だと思っている人もいるようですが、決してそうではありません。油絵具のビリジャンヒューから顔料であるフタロシアニン緑と展色材の油を取り除いてみると、後に白い粉が残ります。この粉が体質顔料です。体質顔料は油と混ぜ合わせると、半透明ないし透明になる性質があるので、フタロシアニン緑のような色が非常に濃く、ききが強すぎる顔料を、ほどよい濃度に調整するために加えられているのです。

前回に『レーキ』の語を説明しました。レーキの中には染料を担体(あるいは支持体)となる顔料(例えばアルミナ)に定着させたものがありますが、この担体も体質顔料です。

有機顔料の耐久性や耐光性に不安を抱く画家も多いようです。合成の有機顔料は天然品のような不純物を含まないのので色の純度が高く、混色しても鮮やかさを保ちます。さらに近年の高級有機顔料などは無機顔料にひけを取らないレベルといっても過言でないほどの耐久性を有する品が幾つも紹介されており、数多くの長所を持っています。ホルベインでも、無機顔料に代わるものとして合成有機顔料に着目しています。



白色顔料



ホルベイン絵具

www.holbein-works.co.jp

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.072(985)1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

ホルベイン工業株式会社 東京都豊島区東池袋2-18-4 TEL.03(3983)9251 大阪府東大阪市上小阪1-3-20 TEL.06(6723)1555